

◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あります。本年の累積報告数は85例で、平成11年～平成19年の同時期の累積報告数(26例～63例)と比べ、最も多くなっています。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は0.24で、過去5年平均値(0.16)を上回り、第44週以降、増加傾向を示しています。10歳階級別割合は、20歳代及び30歳代が最も多く25.0%を占めていますが、全国では、9歳以下が62.5%を占めています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は0.78で、過去5年平均値(1.05)を下回っていますが、第41週以降、増加傾向を示しています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.22で、過去4年平均値に比べ多い状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数が6.49で、過去5年平均値(11.8)を下回っていますが、第42週以降では、今週が最も多くなっており、増加傾向を示しています。
 詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類: 結核 5例(喀痰塗抹陽性 2例, 無症状病原体保有者 なし)
 【1月以降の累積報告数 334例(喀痰塗抹陽性 103例, 無症状病原体保有者 28例)】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT1VT2) 1例 【1月以降の累積報告数 85例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.24	16
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.49	266
	② 水痘	0.78	32
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.46	19
	④ 流行性耳下腺炎	0.29	12
	⑤ 突発性発しん	0.27	11
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

病原体情報

ありません。

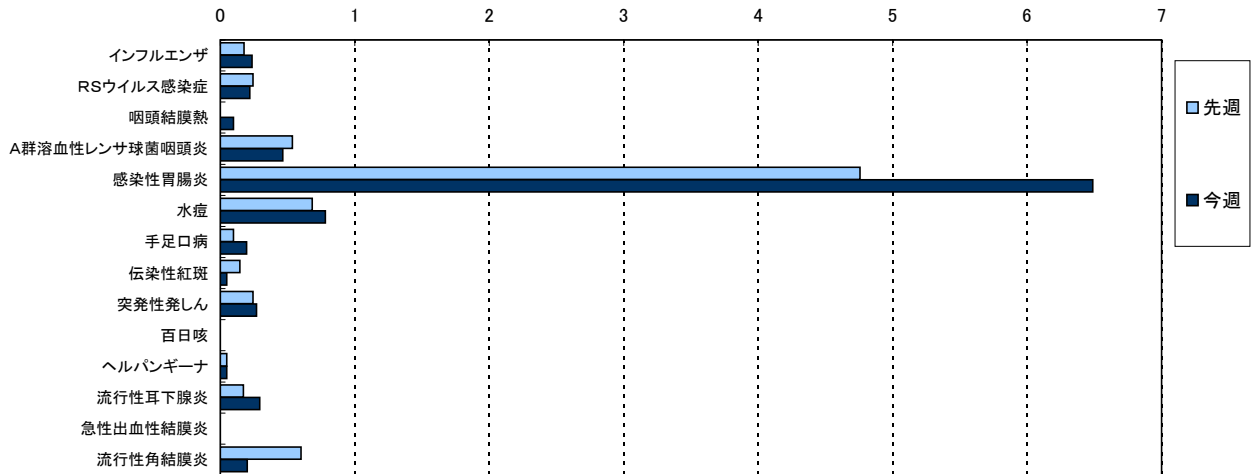
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

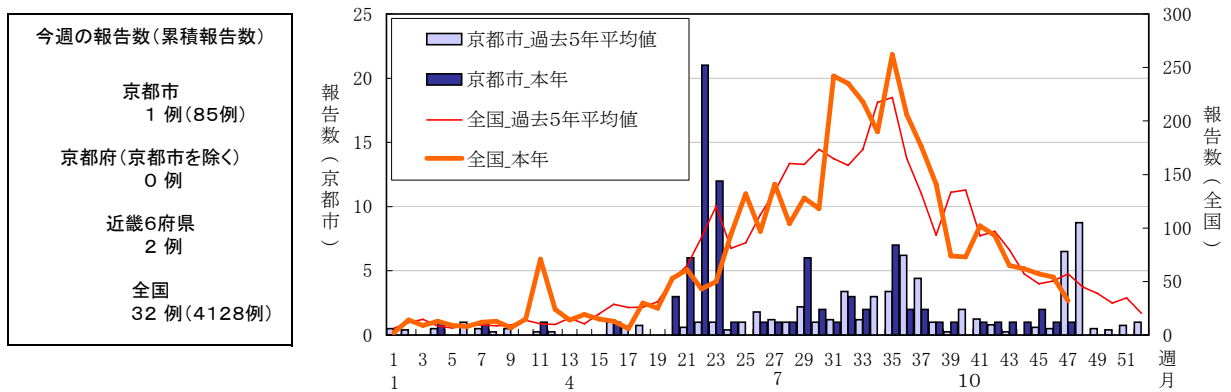
(注) 京都市のデータは、平成20年11月28日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
 また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
 病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第47週)と先週(第46週)の定点当たり報告数の比較

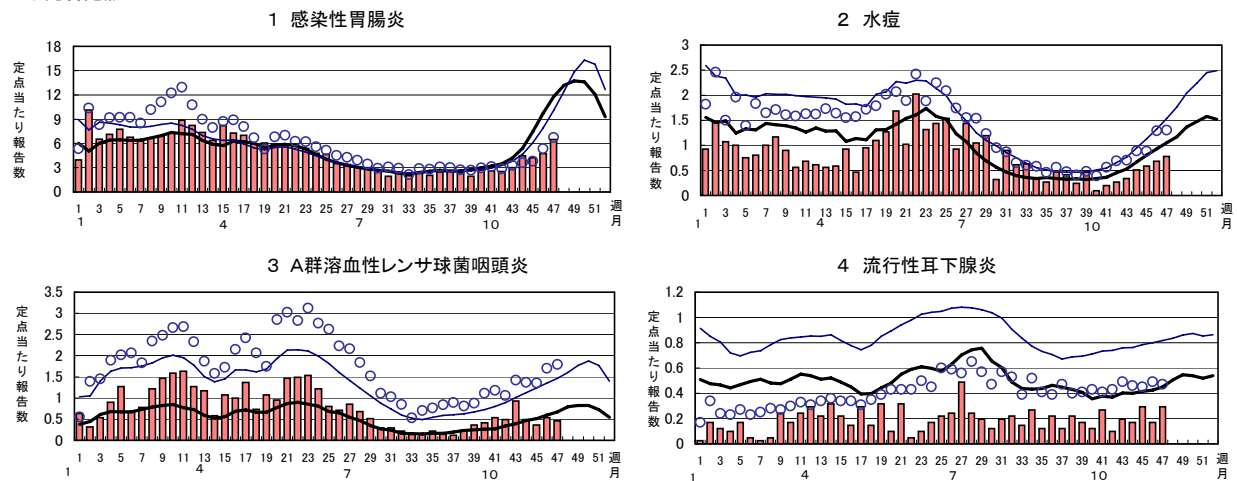


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

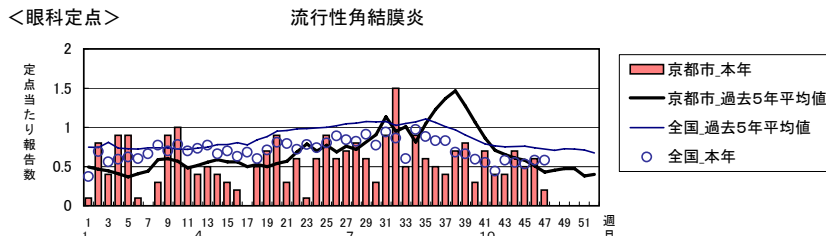


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



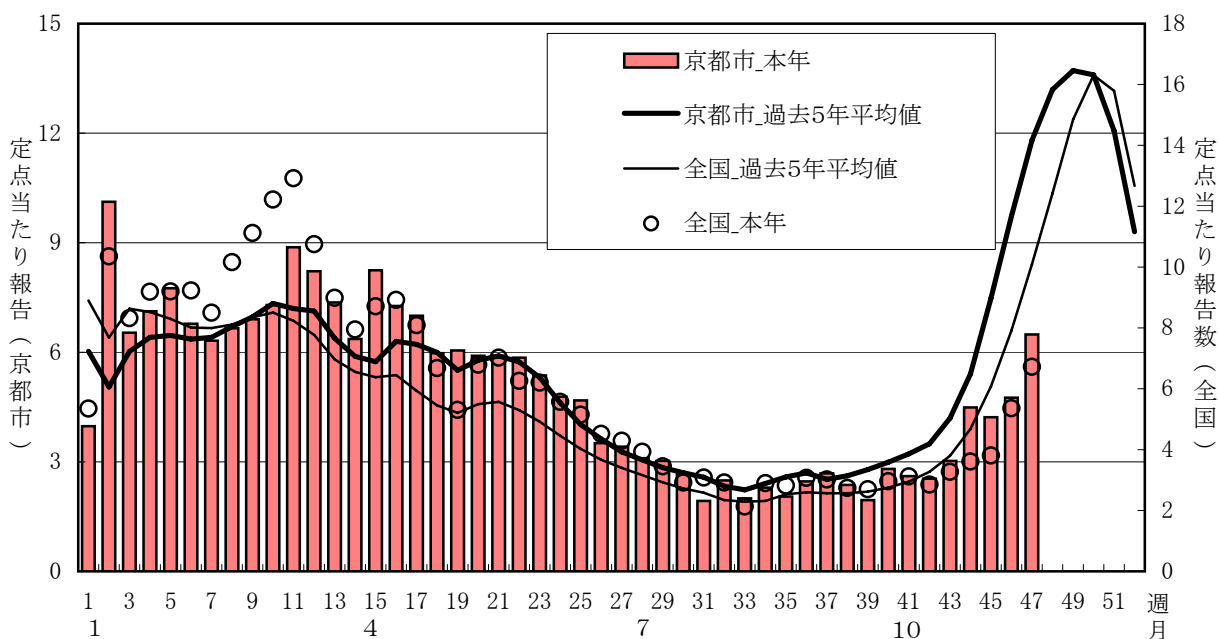
今週(第47週)のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数が6.49で、過去5年平均値(11.8)を下回っていますが、第42週以降では、今週が最も多くなっており、増加傾向を示しています。

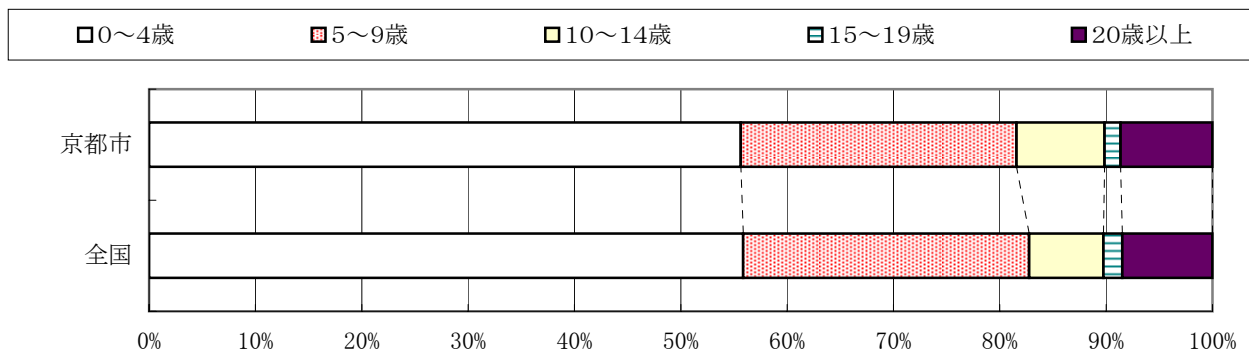
年齢階級(5歳階級)別割合をみると、0～4歳が55.6%を占め、最も多く、次いで5～9歳が25.9%となっています。全国でも同様の傾向です。

第46週～第47週の近畿6府県の定点当たり報告数をみると、和歌山県以外、すべて増加しており、第47週では、滋賀県が8.55で最も多く、次いで京都府が7.6(報告数の内訳 京都市266件、京都市外 281件)となっています。

全国及び本市の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合(第47週)



近畿6府県の定点当たり報告数(第46週～第47週)

